

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 3年 2月 15日

事業所名 きらり中庄(ひかり)

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	3	・人数によってはスペースが狭い為、マットを使用して過ごすエリアの広さを活動に応じて調整している。	・利用人数や放課後の時間帯によっては室内が狭くなることが多い為、バギーを廊下に置いたり不要な物品は整理したりする。 ・コロナ禍のソーシャルディスタンスを確保するには難しい状況もあり、他の部屋も使用しながら対応している。
	2	職員の配置数は適切である	9	1		
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	9	1	・廊下の避難経路(スロープ)を作成した。 ・外からの出入り口を三枚扉に工事し、出入口を広くした。又、直接事業所に入れるようにした(以前は玄関のチャイムを押していただいていた)。	・小児トイレは肢体不自由のお子さんにとっては使い辛い為、室内の交換台を使用している。お子さんによって小児トイレが適している場合もあれば交換台の方が適している場合もある。足台の使用等、状態に合わせた工夫を行う。
業務改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	10	0	・目標管理面談や日々の業務の中での振り返りを行っている。 ・職員間(クラス全体)で都度話し合い、改善策を考え実施している。	
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	10	0		
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	10	0	・事業所の通信でも知らせ、保護者の方に見てもらえるようにしている。	
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	10	0	・外部評価の結果を事業所内で周知し、改善に繋げている。 ・定時退社が出来	
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	10	0	・研修の機会が定期的にある。 ・救急法などは数日に分けて開催し、職員全員が受けることが出来るように工夫されて	
適切な支援の提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	10	0	・各専門職の視点から意見を出し合い、適切な支援に繋げている。	
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用	10	0		
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	10	0	・前年度の内容も振り返りながら、活動プログラムを立案している。	・1歳児から高校生まで幅広い年齢のお子さんが利用している為、年齢と個々の課題を意識した活動内容を考える。 ・複数の職員で意見を出し合い、充実した活動になるよう工夫する。
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	10	0		
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	9	1	・入浴のある日とない日で違う連絡帳を作り、お子さんに無理のないように	・生活リズムへの配慮や、季節の行事も体験することが出来るようにする。
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	9	1	・利用児の状態や個性を尊重して支援を行うよう努めて	
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	10	0	・毎日打ち合わせがある。	
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	10	0	・振り返りに参加出来ない場合も、記録のメモを残して	

関係機関や保護者との連携	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援計画の内容を連絡帳に記録し、職員が常に意識して支援している。</li> <li>・日々、お子さんの支援について、様</li> </ul>	
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・支援会議で個別の支援が行えるよう話し合い出来ている。</li> </ul>	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	10	0		
	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	10	0		
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・連絡帳に学校とやりとり出来る欄を設け、活用している。</li> <li>・送迎時にも学校の先生と情報共有を行い、常に連携を意識して</li> </ul>	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主治医との直接連携は頻繁でないが、課題があれば今までも訪問を行っている。</li> <li>・主に医師の指示書に基づいて医療的ケアを</li> </ul>	・コロナ禍での関係機関との連携方法が課題と感じる。相談支援専門員も含め、日頃から情報共有をこまめに行い、出来る限り病院への訪問も行っていく。
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	9	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新規利用のお子さんは学校に訪問し、情報共有シートを活用して情報共有を行っている。</li> <li>・学校や事業所と連携をとり、情報共有出来てい</li> </ul>	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	2	8		・卒業を迎えたお子さんがまだいない為、移行支援は実施していない。今後移行する際には引継ぎが適切に行えるよう、情報提供の方法を整える。
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	10	0		
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	7	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・障がいのないお子さんとの接点はほとんどないが、法人の行事への参加や、地域へ出る活動等を取り入れてい</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・計画していた外出活動やイベントが実施出来なかった為、コロナウイルス感染が落ち着き次第、事業所外で行う活動や交流出来る活動を増やしていく。</li> <li>・本人や保護者のニーズも確認する。</li> </ul>
27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	7	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放デイ部会の研修等、開催された際は参加している。</li> </ul>	・今後も参加し、事業所の運営や支援に活かす。	
28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	10	0			
29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	9	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ペアレントトレーニングや茶話会等、保護者支援も充実している。</li> </ul>	・参加出来る機会があることを積極的に知らせていく。	
30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・分かりやすい説明を行っている。</li> </ul>		

保護者への説明責任等	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期的な保護者面談を実施している。</li> <li>・保護者から日頃の様子や事業所への要望等を伺っている。</li> <li>・登降園時の引き継ぎ等でお子さんの様子を共有している。保護者から困り感の相談があった際は、一人で答えるのではなく上司や他職員と共有し、様々な視点から解決策を伝えるよう心がけて</li> </ul>	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	9	1		
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・通信に事故報告、ヒヤリハット、意見苦情等を記載し伝えている。</li> </ul>	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	10	0		
	35	個人情報に十分注意している	10	0		
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・保護者面談など、主に担当者が中心となって意思疎通を図るようにしている。</li> </ul>	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	8	2		<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年、一昨年に実施した催しに地域の方も参加出来るよう徐々に工夫したいが、今年はコロナ禍で出来なかった。次回に向けて検討する。又、事業所から地域に出ていく活動も実施していく。</li> </ul>
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・適宜緊急時対応の変更等を行っている。</li> </ul>	
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・シュミレーションを行い、より安全な対応を検討している。</li> <li>・茶話会にて、防災について保護者同士、また保護者と職員とで情報や意見を交換出来る機会をつくった。</li> <li>・他事業所とも避難訓練を行って</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・洪水避難の際、垂直避難をする為に有効な搬送用具等の検討を行う。</li> <li>・備蓄の量や保管場所を増やし、もしもの備えを具体的に行っていく。</li> </ul>
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	10	0		
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載して	10	0		
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	10	0		
43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	10	0	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ヒヤリハットについて職員だけでなく保護者とも共有している。</li> <li>・ヒヤリハットや事故報告を職員間で共有し、以後の対応に活かしている。</li> </ul>		